

平成27年度 中津市立豊陽中学校 「学校プラン」(H P公表用) (平成28年1月28日現在)

学校教育目標 (児童像・学校像など)	学校教育目標:【自分の「成長」を追い求め、夢と志をもって将来をつくる】 *成長するための行動指針『ABC』(A:アクションを起こす、B:ベストを尽くす、C:チャレンジする)
	(めざす生徒像) 学校教育目標の実現をめざす生徒。確かな学力を持ち心豊かでたくましい生徒。自律的に考え行動できる生徒。 (めざす教職員像) 学校教育目標の実現をめざす教職員。プロフェッショナルとして腕を磨き続ける教職員。生徒の可能性を引き出す教職員。 (めざす学校像) 学校教育目標の実現をめざす学校。総合力(学校+保護者+地域)を発揮する学校。関係者の心に火をつける学校。

本年度の重点(チャレンジ目標) *豊陽中学校平成27年度経営方針より「優先度が高い項目」をリフト77%				4~8月 第1回自己評価		~12月 第2回自己評価		~2月 第3回自己評価	
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	取組状況	評価・改善	取組状況	評価・改善	重点目標・達成指標の評価	
中学時代に習得すべき知識・技能等の定着化 (基盤軸)	【授業規律の定着】 B0 ○生徒に「授業に集中する態度」を身につけさせる。 ・「学級の集中雰囲気」を60%、「落ち着いて学習」を85%以上にさせる。	○授業態度の指導を徹底し、授業規律の確保に取り組む。「私語がない」、「離席がない」、「時間着席」、「忘れ物がない」等 ○わかる授業をめざし、「学び合い」、「めあてまとめ」や「習熟・少人数・TT(一部)」等を実践するとともに、授業改善に取り組む。	○授業を予定通りに進める。迅速な組織対応により、授業ストップを生じさせない。(全教職員、管理職) ○全教職員が参加する互見授業を毎月実施する。校長、教務・研究主任他を中心に授業観察。(全教職員、管理職) ○校内研究会(授業改善方策を全員で確認)を学期に1回程度実施する。(研究主任、学力向上支援教員)	・授業ストップさせない取組・授業ストップゼロ達成。生徒評価は落ちつき度73.7%、集中雰囲気56.2%で改善中。 ・互見授業計画立案。学力向上支援教員の公開授業実施(6月)。授業観察	・授業ストップさせない取組・授業ストップ/重大クレーム0件。生徒評価は落ちつき度77%、集中雰囲気55%。 ・学力向上支援教員の授業ノウハウを共有できた。9月以降他の互見授業実施予定。	・授業ストップさせない取組・授業ストップ/重大クレーム0件。生徒評価は落ちつき度77%、集中雰囲気55%。 ・毎月の互見授業と学年レビューを計画通りに実施。 ・学向教員の公開授業	・少しづつ授業改善が図れている。学向教員ノウハウを共有できた。継続実施。		
	【基礎・基本の定着】 B1 ○生徒に「基礎学力」を身につけさせる。 ・定期テストで下位層の生徒の割合を1割程度にする。(目標:下位層3割減、上位層3割増) ・次年度の全国学力調査で平均以下の項目を減少させる。 ・「家庭学習」を85%以上にさせる。	○学びタイムを設定し、基礎・基本の定着を図る。 ○昨年度の反省(一部下位層拡大)を踏まえ、テスト毎に分析・評価を組織的に行う。	○学びタイムを毎日清掃の後、全員で10分間実施する。(学級担任) ○定期テスト実施後に学年、教務主任、研究主任、管理職で下位層等の状況を共有し、改善策を検討・実施する。(教務主任)	・各テスト実施後に教務主任を中心として下位層等の分析を実施。改善策検討中。 ・下位層10.9%で改善中。	・学習習慣づくりができた。左記取組は継続する。	・学びタイムを充実させ、基礎・基本定着に取り組む。	・学習習慣づくりのため、左記取組は継続する。		
		○家庭学習の時間を2時間確保する。	○担任が、毎日、生徒の自学ノートをチェックし、指導する。(学級担任)	・担任の自学ノートチェック、家庭学習等の指導実施。	・家庭での復習77.7%で改善。左記取組は継続する。	・自学ノートチェック等の指導、保護者への情報発信。	・家庭での復習81%で更に改善。取組を継続する。		
		【到達イメージ】 ・学級:全学級で計画通りに授業が進んでいる ・生徒:「時間着席」、「離席がない」、「私語がない」、「忘れ物がない」の授業規律を守っている	【各チームの改善活動】 *学年特性に合った施策実施 上記の全体取組に加え、各チーム(7チーム:①学校経営、②教務チーム、③研究チーム、④1学年チーム、⑤2学年チーム、⑥3学年チーム、⑦生徒指導チーム)毎に、学力向上(授業規律の定着、基礎・基本の定着)に向けて検証時期を明確にし改善サイクルを回していく。→「別紙」参照	学力向上(授業規律、基礎・基本の定着)に向けた各チームの取組を実施。 ①学校経営:7取組、②教務:3取組、③研究:3取組、④1学年:7取組、⑤2学年:6取組、⑥3学年:5取組	・全体取組に加え、各チームの取組を継続実施する。今後も学年特性を考慮し全体・各チームの2階層で改善サイクルを回していく必要あり。 ・到達イメージにあげた学級像は達成、生徒像は未達。	・授業規律、基礎・基本の定着に向け各チームの取組を実施(2学期に6取組追加)。2学年は、保護者連携、「コ」の字休止、毎日学校公開、毎週質問教室等の改善取組みを実施。	・全体取組に加え、各チームの取組を継続実施する。 ・前年度に比べ、生徒意識改善(6項目5%以上改善)、学力大幅向上(全国学力テスト結果)、問題学年の状況も大幅改善等。		
成長する 仕組作り (成長軸)	【個別支援】 G0 ○生徒一人ひとりの教育的ニーズに沿った個別支援を行う。	○個別支援が必要な生徒一人ひとりに応じた対応のしかたを検討し、関係者で共有、実施する。	○生徒指導会議を月1回実施し課題共有・対策検討等を実施する。(生徒指導主事) ○不登校対策委員会を月1回実施し共有・対策等を実施。(地域不登校防止推進教員) ○特別支援会議を月1回実施し共有・対策等を実施する。(特別支援コーディネーター)	・不登校関連対応(18名)は取組効果が出て減少傾向。特別支援対応(11名)は会議運営見直し等により内容充実中。問題行動生徒の指導は継続課題として取組	・個別支援強化策(生徒指導、不登校、特別支援の課題共有・対策検討を行う全体会議、特支会議メンバー直し、特支教室ペアティン見直し等)を実施。	・不登校関連生徒、教室を飛び出す生徒は大幅に減少した。問題行動生徒数は減少したものの生徒指導上の継続課題として取組む必要がある。			
学校の経営力の強化 (マネジメント軸)	【組織力向上】 M0 ○各チーム力の向上を図る。 【総合力】 M3 ○保護者の学校参観者数を世帯数の50%以上にさせる。	○分掌会議等を機能させ、チーム力の向上を図る。 ○学校と家庭が連携し生徒を育成するために、まずは保護者の授業参観を増やす。	○学年会議、朝会等を実施する。(学年主任) ○運営委、定例会議に加え連絡・共有の場(全体連絡会、職朝等)を設定 ○保護者に学校への参観を働きかける。(管理職、全教職員)	・学年会議頻度の増加。(必要に応じて校長参加) ・全体連絡会、個別会議 ・保護者への参観働きかけ実施(便り、PTA会)。	・左記の取組は継続する。(今後も目的の明確化、内容の充実化、効率化を図る) ・保護者への参観働きかけ実施(便り、PTA会等)。	・学年会議頻度の増加。 ・分掌会議の充実が必要。 ・今後も目的明確化、内容の充実化、効率化を図る。			

平成27年度 全国学力・学習状況調査(対象 中3)		
教科等	結果	特徴 (○成果 ●課題)
国語A	○	●問題Aの「話す・聞く能力」が全国平均を2p、県平均を0.7p下回っている。日頃の話し合い活動やスピーチの場面で、論旨に沿った話し合いや効果的な話し方についての学習が深まっていないと考えられる。 ○「書く能力」はが全国平均を2.9p、県平均を3.1p上回っている。「読む能力」はが全国平均を3.1p、県平均を2.4p上回っている。
国語B	○	○当該学年の活用は、昨年は県平均を下回っていたが、今年は全国平均を1.3p、県平均を1.5p上回った。活用力向上の授業・テストの成果である。特に「話す・聞く能力」と「読む能力」は全国・県平均ともに上回った。●「関・意・態」と「書く能力」は、全国・県平均ともに下回っている。条件にしたがって書くことや立場を決めて根拠をもとに説得力のある文章を書くことが苦手である。
数学A	○	○当該学年の知識は、昨年は県平均を下回っていたが、今年は全国平均を0.1p、県平均を1.5p上回った。領域別では、「数と式」で正答率が高い。観点別では、「技能」が高く基本・基本、特に計算力は身に付いていると言える。●「図形」・「関数」領域で、正答率が低くなっている。授業でも、「図形」・「関数」に、苦手意識を示す傾向が強く、学力調査の結果と一致している。
数学B	△	○当該学年の活用は、昨年は県平均を下回っていたが、今年は県平均を1.2p上回った。●しかし、全国平均と比較すると1ポイント低い結果となった。特に、「数学的な見方・考え方」については、全国平均を1.2p下回っているため、改善に向けた取り組みが急務である。
理科	◎	○どの分野においても全国・県平均を上回った。授業では、生徒同士で教え合いやすく自分の考えを発表しやすくしている。テスト後の授業では解説を行い、どこでつまづいたのか、どこに注意すべきか等を指導したことが今回の結果に繋がった。
質問紙		●「自分の考えを発表する機会」が全国・県平均を大きく下回った。○「失敗を恐れず挑戦」が全国・県平均を大きく上回った。

平成27年度 大分県学力定着状況調査(対象 中2)			
教科等	結果	特徴 (○成果 ●課題)	
国語	知識	△	●全体的に県平均を下回っている。領域では、「話すこと・聞くこと」が県平均より約8p、「書くこと」・「伝統的な言語文化と国語の特質」では約5p下回っている。問題の内容別に見ると、「話し合いの内容を聞き取る」・「文法・語句に関する知識」・「発表内容の問題を読み取る」問題の正答率の低さが目立った。また、活用問題に力の不足が感じられる。
	活用	△	
数学	知識	○	●知識については、県平均を下回っているものの、目標値を若干上回っているため、一定程度の理解ができているといえる。活用については、目標値を1.6p下回っているため、知識に比べて活用力が低いと考えられる。領域別では、図形(平面・空間)・関数・資料の活用が目標値を下回っている。特に資料の活用が苦手である。
	活用	△	
理科	知識	○	●教科全体として、県の平均値と同程度か下回っている。領域別に見ると、「身近な物理現象」で2.2p、「大地の成り立ちと変化」で4p下回っており、目に見えないもの・イメージしにくいものに対する力が低いと考えられる。観点別では「科学的な思考・判断」で1.1p、「自然現象についての知識・理解」で1.8p下回っている。
	活用	○	
英語	知識	△	●県の平均数値と比べると、基礎的な分野において4.6pの開きがある。領域・観点別の比較においては、表現の分野、特に書くことにおける達成度において、4.1pの開きがある。このことから、英語の基本事項の定着に力を入れ、書くことにも力を入れていく必要があると考えられる。
	活用	△	
質問紙			○朝食摂取などの生活習慣は概ね身につけている。●自分に自信が持てない(自己肯定感が薄い)生徒が多い。○規範意識はある程度ある。●話し合い時に意見交換等ができている。○自分の気持ちをわかってくれる友達がいる。●自分の思いをうまく伝えられない、他の人との関係をうまくつづけない等、コミュニケーション能力の低さがみられる。

平成27年度の特徴的な教育活動	
学力面	○「学び合いのある授業」の取り組み ○学びタイム、朝読書、自学ノート、質問教室など ○学年特性に合った施策の実施 ○授業外でのALTによる外国語活動(昼休みの読み聞かせ一休中止)
生活面	○学校教育目標、成長するための行動指針による生徒の意識変革への取り組み ○自主性を育むためのノーチャイム(5/29より休止中) ○衣替えの自由化(衣替えする制服と時期は生徒の判断)
体力・健康面	○家庭での「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化促進 ○教室喚気による衛生的な空気環境の確保(生徒自主運用)

次年度に向けた課題(重点目標設定・指標の設定 取組内容 組織力向上など)	